

1 家庭学習の推進

(1) 現状と課題

【現状】 ※支援制度（生活保護・児童扶養手当・就学援助・社会的養護）利用世帯・児童に対するアンケート調査より

①学校以外での勉強時間や費用

支援制度利用世帯の子どもと本市全児童平均等とに大きな差

- ・ 1日あたり勉強時間 小6（1時間以上） 34.5%（市全児童平均 60.2%）
中3（2時間以上） 20.3%（市全児童平均 37.4%）
- ・ 塾代月平均支出額 13歳（5千円未満） 67.2%（21大都市平均 0.6%）

②進学率

生活保護世帯児童等と本市全児童平均に大きな乖離

- ・ 高校卒業後進学率 生活保護33.3% 児童養護施設等18.2% 市全児童84.5%

③大学進学の意向

支援制度利用世帯の子どもの希望と現実 ⇒ 自らの学力の問題から進学を断念

希望と現実	子ども		保護者	
	希望	現実	希望	現実
	33.5%	20.2%	53.5%	16.5%
乖離理由	自身の学力	経済的問題	子どもの学力	経済的問題
	23.3%	17.1%	14.1%	50.9%



【課題】

○学校における低学力児童への学習支援、放課後の学習支援、家庭での学習習慣の定着促進が必要

1 家庭学習の推進

(2) 計画における対応

①数値目標の設定

- ・ 学校の授業以外での1日あたりの勉強時間
- ・ 進学率（高校進学率、高校卒業後進学率）と就職率



本市全児童平均に近づける

②施策の推進

- ・ 学習習慣定着に向けた支援等、学校教育における学力保障（教育委員会）
- ・ 生活困窮世帯等への学習支援（保健福祉局）
- ・ 「子どもナビゲーター（※）」の配置（こども未来局）

※生活習慣・学習習慣の改善を働きかけ、関係機関との連携など、包括的な支援を行う
専門職 [計画期間中に配置]

(3) 協議・調整事項

①福祉施策（親の就労支援や親子の生活支援など）と教育施策（学習支援）との効果的な連携方策

②教育施策としての具体的な改善策

2 気づき・つなげるための視点の共有、連携方策

(1) 現状と課題

【現状】

- ① 支援制度利用世帯の子ども（18歳以下）：市内に約13,000人（約13人に1人）
このほか、支援制度につながっていない、潜在的な貧困対策の支援対象者が推測される
- ② 経済的困窮だけでなく、健全な育成環境が保障されていない、家庭環境による生活習慣の乱れにより、学習習慣が定着していない子どもたちも、当計画の支援対象



【課題】

○どのようにして、対象者に気づき、つなぎ、連携して支援するか

- ① **【気づくために】**
子どもと関わりのある様々な関係者が、意識と知識を持つことが必要
- ② **【つなげるために】**
広範な支援制度につなげていくための制度知識の普及やコーディネーターの設置が必要
- ③ **【連携方策】**
教育・福祉・地域等様々な支援制度が連携して支援する仕組みが必要

2 気づき・つなげるための視点の共有、連携方策

(2) 計画における対応

- ①子どもナビゲーターの配置（こども未来局）
- ②スクールソーシャルワーカーの活用（教育委員会）
- ③支援すべき児童に気づき、つなげるための資質向上を図るための広報・研修強化
- ④教育・福祉・地域等、様々な機関との連携強化

(3) 協議・調整事項

- 小中学校等が貧困対策の視点から、支援すべき児童に気づき、つなげるための資質を高めるための具体的方策

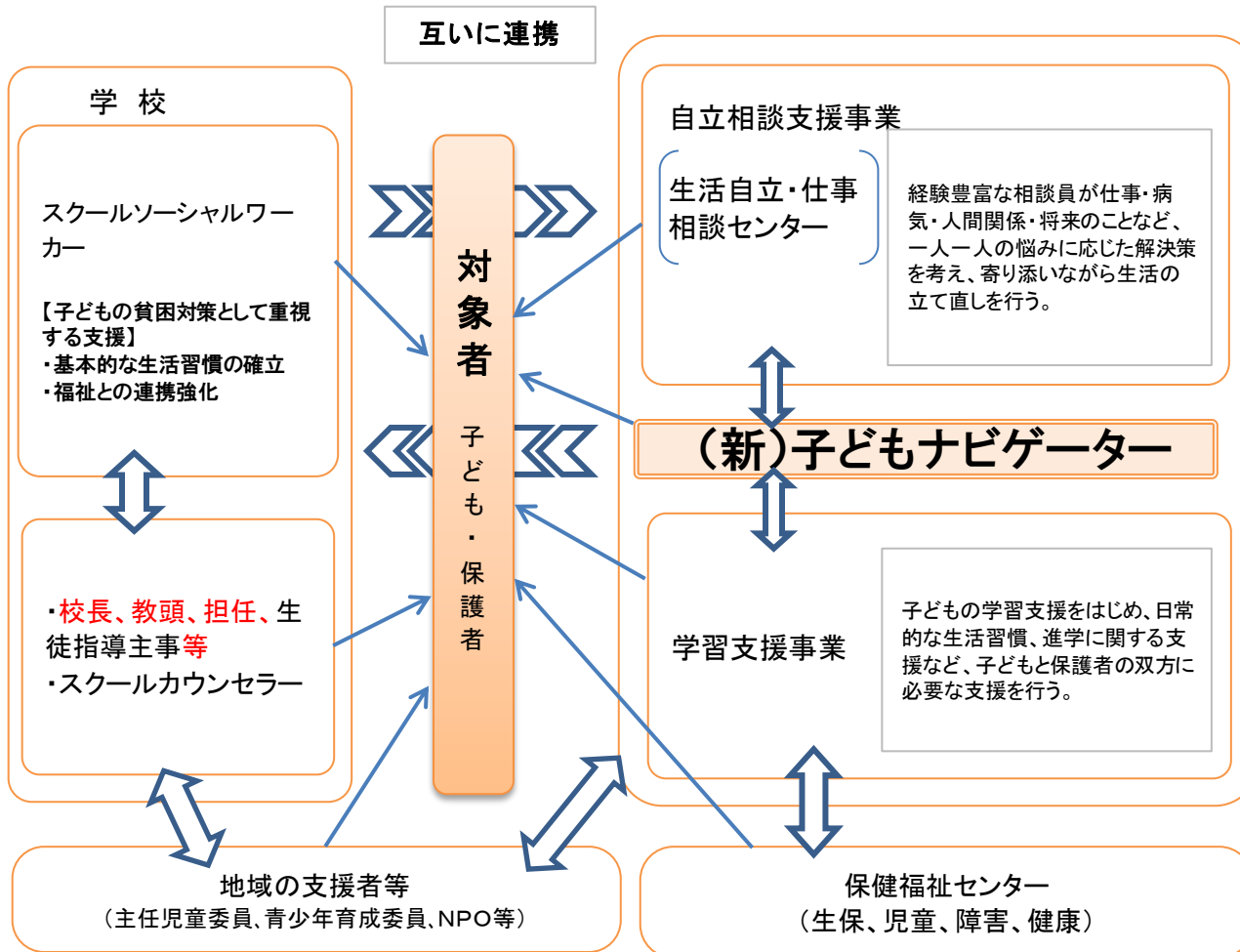
3 (参考)子どもナビゲーター

教育

(学校プラットフォーム)

福祉

(生活の支援)



【対象者】

経済的困窮だけでなく、基本的な生活習慣・学習習慣が形成されず、将来のビジョンや自尊心、自己肯定感に欠ける児童

【子どもナビゲーター】

- 学校等から、支援対象児童をあっせん
- 子ども・保護者に生活習慣・学習習慣の向上を直接働きかけるケースワーカー（朝起きられない、歯磨きができない等から）
- 様々な関連施策をコーディネート
- 計画期間中に設置を検討